

1/24 放射線リスク講演会を開催

村が主催する放射線リスク講演会が福島市役所飯野支所会議室で開かれ、村議員、学校関係者、農業委員、村職員ら55人ほどが出席しました。

東京大学医学部附属病院放射線科准教授の中川恵一さんが、「被ばくと発ガンの真実」をテーマに「がんとはどのようなものか」「なぜ放射線は危険なのか」などについてこれまでの医学的データや実験結果などを基に、根拠を示しながら丁寧に講演しました。

中川さんは「私がこの話を直接住民にしても納得しない方も多いと思います。住民の中心になる方が放射能についての知識を深めて他の住民の方々に伝えていただくことが必要だと思います」と講演を締めくくりました。

出席者からは「わかりやすい講演だった。特に大人が放射線について勉強する機会は大切だと思う」「講演を聞いても不安は残る。しかし放射能について考えるうえでの基本にはなったと思う。これからもっといろいろな人の話を聞いていきたい」との感想がありました。

村では今後も村民に向けた放射能について理解を深めるための機会を講演会や懇談会、広報紙への掲載など様々な形で実施していく予定です。



▲講演会のようす

— 講演の主な内容 —

- 日本はがん大国であり2人に1人ががんになり、3人に1人はがんにより死亡している。
- 放射線を浴びることで直接健康に被害があるとすれば、がんの発生率が上がることであり、被ばくの問題は発がんの問題ととらえることができる。
- 自然被ばく（1.5mSv/年）と医療被ばく（4 mSv/年）を合わせた日本人の年間平均被ばく量は5.5mSv/年になる。これに公衆の被ばく限度（1 mSv/年）を加算した6.5mSv/年までが年間の許容被ばく限度になっている。
- 今回の原発事故による被ばくと原爆による一瞬の被ばくで低線量被ばく同じ量被ばくした場合、一瞬で被ばくしたほうが危険性は高い。放射線と発がんの関係は原爆被爆者のデータが基本になっている。
- 100mSvの被ばくで0.5%発がん率が上がるがそれ以下の発がんに関してはデータはないためわからない。
- 発がんの主な原因は1/3がタバコ、1/3が食事や飲酒などを含む生活習慣、残りの1/3は運動である。低線量の被ばくを避けることで、タバコやお酒の量が増えたり、野菜不足、運動不足になる方ががんになるリスクは高くなる。
- 避難生活による生活習慣の乱れから発がん率が上がることも考えられることから年に1度はがん検診を受け早期発見、早期治療を受けることが重要である。



▲委員に委嘱された赤石澤備さん（上飯樋）



▲委員に委嘱された菅野康雄さん（関根・松塚）

村固定資産評価審査委員の委嘱状交付式が飯野出張所村長室で行われ菅野康雄さん（関根・松塚）、赤石澤備さん（上飯樋）がそれぞれ再任されました。任期は菅野さんが平成26年5月5日まで、赤石

12/26 村固定資産評価審査委員に2人を再任

澤さんが平成26年4月30日までとなっています。納税する方が村の固定資産課税台帳に登録された価格に不服があれば固定資産評価審査委員会に審査を申込むことができます。

1/1 人権擁護委員に佐藤敏子さん（草野）を委嘱

佐藤敏子さん（草野）が平成24年1月1日付けで法務大臣から人権擁護委員に委嘱されました。

人権擁護委員は、人権が侵害されないように注意を払い、もし、人権が侵害されたときは、相談を受けて、被害救済のための適切な処理を行います。

また、街頭啓発、講演会、座談会などを通じて、人権についての理解を深めてもらうための活動にも務めています。

佐藤さんの任期は平成26年12月31日までの3年間です。



▲人権擁護委員に委嘱された佐藤敏子さん（草野）

【村の人権擁護委員】

- 嘉藤京子さん
- 北原康子さん
- 草野周一さん
- 佐藤敏子さん

【平成24年1月1日現在】

12/26 第10回東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会を開催

村議員で構成される東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会は飯野出張所議場で開かれ、講師を招いて村の除染について学びました。

今回の特別委員会で講師を務めたのは原子力委員会委員長代理で工学博士の田中俊一さんです。

田中さんは国の除染方針などを確認しながら村内で行った除染実験の結果などを説明し、学校での被ばく線量を年間1 mSv以下にするためには広範囲での除染が必要になることや除染には地域住民の協力が不可欠でかつ多くの人手が必要なこと、除染では個人の財産を破壊、損傷することは避けられず財産の補償、修復までが除染の範囲とすべきであることなどを話しました。

委員会では今後も放射能に関して学習する機会を設けていきたいとしています。



▲議場で行われた特別委員会のようす

1/17

平野博文文科科学大臣が村の小学校を視察

平野博文文科科学大臣が川俣中学校内の、村の小学校を視察しました。平野文科科学大臣は、川俣中学校校長室で菅野村長・古川川俣町長と懇談の後、村の小学4年生の教室で児童と一緒に給食をとりました。給食をとりながら「給食は残さ



▲村の子どもたちと給食をとる平野文科相

「兄弟は何人いるの？」と質問し児童とのスキップを図りました。児童からも「好きな食べ物は何ですか」「大臣には子どもがいますか」と質問される場面もありました。給食をとり終えた平野文科相



▲授業参観のようす

は「ありがとうございます。私が大臣に就任して初めて出張した学校です。心に残る場所となりました。みなさんのことを心に留めて頑張ります」と児童にお礼を述べました。給食後、各学年の授業を参観し視察を終えた大臣は「子どもを守ることは国の大命題。教育環境の整備をもっと進めていきたい」と決意を述べていました。

1/17 フランスの原発立地自治体の視察団が飯野出張所を訪問

フランスの原発立地自治体の首長や助役などで構成された福島視察団が飯野出張所を訪れ村長から原発事故当時の対応や避難の状況などを聞きました。同視察団は、被災地の生の声を聞くことで原発事故の現状を理解したいとの思いから来日しました。



▲村長に質問する視察団

視察団からは「村として環境汚染に関する検査権限はどれくらいあるのか」などの質問がだされました。村長はこの質問に対して「除染の権限は国が持っている。わたしたちは一部の権限を渡してほしいとお願いしている。国に責任を持ってもらうことは大切だが、それだけでは私たちの村を思う気持ちが反映されないと思うから」と回答するなど一つひとつの質問に自分の考えをまじえながら答えていました。視察団は、村の他にも南相馬市や広野町など被災地を視察しました。

12/27 農地除染対策実証事業に関する飯館村の農業者等との意見交換会

農地除染対策実証事業に関する飯館村の農業者等との意見交換会が福島市飯野学習センターで開かれ、国と村の農業者の代表らが意見を交わしました。



▲意見交換会の冒頭あいさつをする鹿野道彦農林水産大臣

この意見交換会には鹿野道彦農林水産大臣も出席しました。

村の出席者からは「除染に最大限の配慮をしてほしい」「除染事業だけでなく作物を作らせてほしい」といった意見が出されました。

国からも「形だけの除染では意味がない。一刻も早く昨付けできるよう村と一緒に取り組んでいく」と話しました。

また、会では農地除染対策実証事業の実施案も示されました。

案によれば平成24年2月からモニタリングなどを行い、3月から草野向押地内、小宮行政区内、長泥行政区内の3カ所で表土剥ぎ取り、水による土壌かく拌・除去などの実証実験を開始する予定です。

12/19 環境省・自衛隊が役場庁舎の除染結果を村長らに報告

役場庁舎除染終了後の結果報告会がビレッジハウス多目的ホールで開かれ、役場本庁舎の除染を行った環境省・陸上自衛隊第44普通科連隊が除染の結果を村長らに報告しました。



▲結果報告会のようす

報告会では報告者が庁舎の除染を行った手法や除染の効果をプロジェクターを使いながら説明しました。

例えば芝生では芝生の剥ぎ取りなどを行うことで4.39μSv/hから0.96μSv/hまで(低減率78%)放射線量を低減させること

ができました。また、石畳舗装は隙間の土、苔を除去しブラッシングや高圧洗浄を行うことで除染前の3.41μSv/hから1.78μSv/hへ(低減率48%)と低減させることができました。

これらの報告に村長は「村が勝手に除染できない状況が続いていたのでありがたい。除染をどのように進めたらよいかわからないだったが除染の手順などを教えていただいた。このモデル除染を今後活かせればと思います」とお礼の言葉を述べました。



▲村役場本庁舎の除染のようす

1/29 佐須「虎捕太鼓」、比曽「三匹獅子舞」が出演 絆つながる「ふくしまの春」開催

福島駅東口駅前広場から駅前通り、街なか広場、コラッセふくしま等を会場に「絆つながる『ふくしまの春』」が開催され村からも佐須行政区の「虎捕太鼓」と比曽行政区の「三匹獅子舞」が出演しました。

このイベントは、県北地域で避難生活を送る避難者と県北地域の絆を深め、復興を願う気持ちを一つにしようと、福島県、県北地域の自治体、県北地域で避難生活を送る被災者のいる自治体などで構成される絆つな



▲街なか広場で披露された佐須行政区の「虎捕太鼓」



▲福島駅東口駅前広場で披露された比曽行政区の「三匹獅子舞」

がる「ふくしまの春」実行委員会が主催して開催したものです。

「ふくしまの春」では「ふくしま祭りめぐり」として県北地方や相双地方の祭りや伝統芸能を披露したり、足湯体験や飲食ブースが設けられました。

「虎捕太鼓」は街なか広場、「三匹獅子舞」は福島駅東口駅前広場にそれぞれ設けられた特設会場で太鼓や踊りを披露し、見学者からたくさんの歓声と拍手が贈られていました。

1/17

商工会青年部が子どもたちに お絵かきセットを寄贈



「お絵かきセットを寄贈した大井利裕青年部長(中央)、佐藤健太副部長(右)と浜名光生生涯学習課長(左)

ることを部員で話し合い進めていきたい」と話していました。

寄贈されたお絵かきセットは幼稚園を通じて子どもたちに渡されます。

お絵かきセットを寄贈した大井利裕青年部長(中央)、佐藤健太副部長(右)と浜名光生生涯学習課長(左)

飯館村商工会青年部が村の子どもたちにお絵かき帳とサインペンを寄贈しました。

同青年部は、これまで村内の子どもたちや親子を対象にしたクリスマス会を開いたり、幼稚園や保育所に室内遊具を寄贈するなど地域貢献につとめてきました。

今年、原発事故の影響で活動が大幅に制限されてきましたが、全国から寄せられた義援金などを基に原発事故により外で遊ぶことができない子どもたちにと今回の寄贈にいたしました。

大井利裕青年部長は「今後も地域に貢献でき



1/8

平成24年飯館村消防出初式が行われました

平成24年飯館村消防出初式は飯館中学校体育館で行われ、消防団員、女性消防隊ら122人の消防関係者が出席しました。観閲の後に行われた出初式では荒利喜消防団長が「厳しい冬の後には、暖かな春が訪れる。この厳しい状況を関係機関が協力して乗り越えればきっと村に帰れる日が来ると

信じている」とあいさつしました。

式では表彰伝達も行われ、赤石沢富夫第2分団長が福島県消防協会から表彰されたほか多くの団員が県消防協会、同相馬支部から表彰されました。

また、今回の震災に際し、危険を顧みず災害活動に従事した功績から村消防団も総務大臣から表彰を受けました。



▲観閲のようす(上)と表彰伝達を受ける消防団員(左)



新年の集いへのお誘い

皆さんのふるさと「飯館村」は地域のコミュニティ(つながり)を大事にしてつくられてきた村です。しかも自分の出来ることは、出来るだけ自分で(地区別計画等)ということ、区長さんを中心にしてそれに役割を担ってもらってききました。村民みんなで力を合せてつくってきた村だったんですね。

それが今回の原発事故による全村避難の結果、1,700世帯が2,700世帯になってしまいました。これは、1家族が2つ3つに離ればなれになってしまったということです。

村では、これまでの行政区のつながりも大切にしながら、避難先での新しいつながりをつくるため、両方に助成制度を残したりつくったりしているところでは、

また、飯坂温泉に「いやしの宿 いたたて」を用意し、いろんな形で村民の方が顔

を合せられる機会をつくってききました。避難生活の中では、このようなことがとても大切なことだからです。

そこで、2月12日(日)には多くの村民の方が顔を会わせる機会として「いいところです。この催しは、これまでの「新春村民の集い」に変わるもので、昨年の村の十大ニュースの発表や歌のステージなどもあるようです。この集いでは、何かと不安でおられるお父さんお母さんの「心の相談室」も設ける予定です。是非利用して下さい。

また、この集いで多くの方からいただいた義援金もお渡しする予定です。避難生活のつらさ、もどかしさ、やるせなさを吹き飛ばすためにも、一人でも多くの方に出席していただければと思います。出欠の通知を出していただくも大丈夫ですので、是非足をお運びください。

今年の十大ニュースのトップは？
あなたの目と耳で確かめ、そして楽しんでください。きつと「とてもよかったわ」ということになると思います。

平成24年1月24日

飯館村長 菅野典雄

地震発生からの主な経過

（12月17日から1月27日まで）
平成24年

12月19日

- ・草野大師堂地内で国による除染モデル実証事業開始（～2月末）
- ・役場庁舎除染結果報告会が開かれる（飯館村）

21日

- ・行政区長会（福島市飯野町）

22日

- ・村幼稚園・小学校・中学校終業式（川俣町）

24日

- ・第1回機構改革庁内検討会（福島市飯野町）

25日

- ・沖縄でのまでの旅出発式（沖縄県～27日）

（除染講演会・福島市飯野町）

26日

- ・第10回東京電力福島第一原子力発電所事故災害復興対策特別委員会

27日

- ・第1回除染事業に関する組織立ち上げ会議（福島市飯野町）

1月8日

- ・農地除染対策実証事業に関する飯館村の農業者等との意見交換会（福島市飯野町）

10日

- ・第2回飯館村避難村民自治組織連絡協議会（福島市飯野町）

11日

- ・平成24年飯館村消防出初式（飯館村）

16日

- ・平成24年飯館村成人式（福島市飯野町）

17日

- ・村小学校・中学校始業式（川俣町）

19日

- ・村幼稚園始業式（川俣町）

24日

- ・第2回機構改革庁内検討会（福島市飯野町）

26日

- ・第2回除染事業に関する組織立ち上げ会議（福島市飯野町）

27日

- ・常陸宮さま、華子さま両殿下が松川第1仮設住宅を訪問（福島市松川町）

27日

- ・村商工会青年部が支援物資を寄贈（福島市飯野町）

27日

- ・平野博文文部科学大臣が村小学校を視察（川俣町）

27日

- ・放射線リスク講演会（福島市飯野町）

27日

- ・線量計配布式（川俣町）

27日

- ・第3回機構改革庁内検討会（福島市飯野町）

27日

- ・第1回飯館村議会臨時会（福島市飯野町）

ひとのうごき

（12月15日から1月20日までに届け出のあったもの）

誕生おめでとう



| 赤ちゃんの名前 | 親の氏名 | 行政区 |
|----------|--------|--------|
| 菅野 葵ちゃん | 義樹・美枝子 | 比 曾 |
| 菊地 なみちゃん | 充展・沙織 | 前田・八和木 |
| 河野 凜夢くん | 奨太・莉奈 | 二枚橋・須萱 |
| 渡邊 凜音ちゃん | 健児・美沙紀 | 比 曾 |

12月15日から1月20日まで

すくすくと育ててね



▲成人式の様子

結婚おめでとう



| 氏 名 | 出身地 |
|-------|-------|
| 高倉 政知 | 前田 田市 |
| 高橋 裕忠 | 長 泥 |
| 佐藤 大喜 | 宮 内泥 |

12月15日から1月20日まで

いつまでもお幸せに



▲放射線リスク講演会の様子

おくやみ



| 氏 名 | 年齢 | 行政区 |
|--------|-----|--------|
| 志賀 八ツ | 91 | 藤 平 |
| 鹿山 初江 | 83 | 深 谷 |
| 門馬 昌二 | 59 | 小 宮 |
| 遠藤 一男 | 84 | 比 曾 |
| 大久保 満 | 92 | 宮 内 |
| 志賀 幸作 | 80 | 藤 平 |
| 庄司 賢司 | 46 | 草 野 |
| 永井 敬治郎 | 100 | 関 沢 |
| 大戸 金三郎 | 82 | 草 野 |
| 高橋 キミノ | 80 | 長 泥 |
| 高野 政見 | 97 | 芦原・八木沢 |
| 三浦 キミ | 97 | 白 石 |
| 大和田 初男 | 75 | 比 曾 |
| 西尾 豊 | 59 | 二枚橋・須萱 |
| 目黒 仁吉 | 83 | 伊 丹 沢 |

12月15日から1月20日まで

ご冥福をお祈り申し上げます

編集後記



今回の広報は年末年始に教育委員会の行事がたくさんあったこともあり子どもたちの写真が多い広報になりました。今年例年以上に寒く、雪深い冬となっています。なれない避難生活が続いています。体調を崩さぬよう気を付けなければと思うこの頃です。



▲卒園卒業式実行委員会のみなさん



▲除染モデル実証事業の様子